

第 5 回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会議事概要

会議名称	第 5 回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会
日 時	令和元年 6 月 14 日（金） 9：30～11：30
場 所	千代田区役所 4 階 4 0 1 会議室
会議次第	1. 開会 2. 議題 (1) 千代田区都市計画マスタープラン改定について（中間のまとめ骨子） 3. その他 4. 閉会

<議事概要>

■ 第 1 章 千代田区の現況について

- 全体的に歴史、遺産を活かしつつ先進的なものを未来へつなげていくという考え方だが、まちづくりの系譜（5p）以降が断片的になっている。江戸のまちの核を生かして引き継いでいくことは大事だが、見てわかる石垣や神社だけではない歴史・文化の何を生かして引き継いでいくのかを計画の中で見えるようにしてほしい。改定の目的から後ろへうまくつながるとよい。（伊藤委員）
- まちづくりの重要課題（12p）と都市計画マスタープラン改定の視点（13p）のポイントやプライオリティ、相互の関係がわかりづらい。（村木委員）

■ 第 2 章 まちづくりの理念・将来像について

- 「～がつながる」の記述（14p 将来像の下部）というものと都市計画とのつながりがわからない。将来像の〔つながる都心〕だけでよいのではないか。（村木委員）
- 骨格構造（16p）中の軸の種類が多く、都市機能連携軸とエリア連携軸の違いがわかりづらい。ここでは、区がどうしていきたいのかをシンプルに大枠で示すべき。（村木委員）
- 骨格構造（16p）中の都市骨格軸はレイヤーの異なる 3 つの軸がまとめられているように感じる環境創造軸、象徴的景観軸が何を指しているのかがわかりづらく、調整が必要。（池邊部会長）
- 2040 年の生活が見えていない。20 年後のライフスタイルを考えて、様々な機能を整理すべき。日本橋や六本木の再開発により丸の内がおいていかれるのか、また、番町・麴町の高経年マンションの更新後、どのように変化するか等あまり想定されていないので整理が必要。（池邊部会長）

■ 第 3 章 分野別まちづくりの目標と方針について

- 7 分野を 2 つに括っている（20p）が、分野間の連携についての記述はしないのか。（伊藤委員）

- ビジネス拠点に対するメッセージがないのではないかと。首都として、日本の中心、先進地域として、地位を高めていくという部分が出てきていない。就業者数が多いという区の特徴を考えて、住民目線に加えて就業者目線をもっと取り入れてはどうか。（中村英委員）
- 住環境の多様性についてうたっているが、流入者だけではなく古くから住んでいる人の多様性もあると思う。ビジョンにはその視点も入っていてほしい。（伊藤委員）
- 「分野 1 .豊かな都心生活を実現する住環境の創出」（21p）の記述について、「ひと」「人」「多様なひと・人」といった書き方は人の特徴に着目して分類しているように見えてしまう。多様性を重視して活動が豊かになるという視点があるとよい。（橋本委員）
- 「医療」という言葉は分野 1 （21p）にしか出てこない。今ある資源としての医療機関との連携のシステムの記述がされていない。防災のなかの医療もあるだろう。防災や福祉と医療との連携についての記述もされるべき。病院への働きかけはしにくいと、メッセージとして社会への貢献を意識してもらえるように。（橋本委員）
- 分野別と地域別のつながりがうまく整理されているとよい。特に都心中枢エリアは他の 2 つの基本エリアとは性質がまったく違う。「分野 1 .豊かな都心生活を実現する住環境の創出」の住環境には、都心中枢エリアの業務環境に関することが抜けている。また、「分野 7 .環境と調和したスマートなまちづくり」は都心中枢エリアに限定した内容のように感じる。「分野 5 .災害に強く回復力の強い強靱なまちづくり」は居住者向けの内容が多い。（村上委員）
- 景観づくり分野の今後の論点（8p）の祭礼やイベントなど人の活動を景観資源としてという視点は大切。「分野 3 .都心の風格と景観、境界の魅力を創出・継承するまちづくり」（22p）ではその視点が抜け落ちているので配慮してほしい。（三友委員）
- 都市マスの改定によって、ビジョンづくり、ガイドラインづくりが始まる。都市マスの方針を拠り所にしなが、先駆的な取組みが出てくるとよい。モビリティビジョンは都市計画で考えるべきとダボス会議で触れられており、世界は検討を進めている。国土交通省も検討を始めるようだ。モビリティプロバイダーによるシェアモビリティが無秩序に運用されたり地域が分断されたりするようなことになると困る。それらをどうマネジメントするか、適正配置として行政のガイドラインが必要になる。改定都市マスでこれらに留意していくことを数行でも記述しておくべき。（小澤副部長）

■ 第 4 章 地域別まちづくりの目標と方針について

- 地域別のまちづくりの方向性とポイント（29～31p）の地域別の展開のポイントの記述について、問いかけなのか断定なのかスタンスがわかりづらい。（村木委員）
- 3 つの基本エリア、7 つの地域と 2 段階にすることの意味がわかりづらい。地域の将来のあり方を検討するための区分なので、大枠であればエリア、小さい区域で合意形成が必要なことであれば 7 地域となるが、シンプルにしないとわかりづらい。また、エリアについては 2 章の骨格図で説明すればよいのではないかと。（村木委員）

- エリアに区分することで何をどう方向づけたいのかを整理すべき。また、フリンジ部分の他区との連携も含めるべき。（池邊部会長）

■第5章 都市マネジメントの方針について

- 重要なプレイヤーとしては、行政、民間事業者、住民、それらをマネジメントする人であり、民間事業者への期待は大きい。行政、民間事業者、住民等に期待する役割は、第3章、第4章のそれぞれの分野、地域において記載されているが、第5章がよいのかはわからないが、総覧性を意識して記述することで、それらの対象へのメッセージとなる。（中村英委員）
- 大きな枠組みで何が軸となるのか、マネジメントの方針に何が反映されていくのか、ライフスタイルの想定とモビリティ、エネルギー、医療、福祉からどういった機能が必要か整理する必要がある。（池邊部会長）
- 大きな変化の時代には、国や都ではなく区が中心となる。方針を具体的に地域で実現するのは市区町村だが、行政だけではできないので連携が必要になる。しかし、連携だけでは伝わらない。Grand-up 型のモデルを市区町村がつくるべき。千代田区が先駆的に取り組むことを記述し、感想にはなるが中心的役割を示すべき。（小澤副部会長）

■その他

- 東京都の区域マスタープラン（来年度改定予定）に対するメッセージ。広域に対するメッセージがあったほうがよい。（福井委員）
- 20年後の2040年までには、世界的にすぐ変化が起こることになるだろう。リニア開通、働き方の多様化等により今の千代田区都心機能は相対的に低下することが考えられる。区内の民間のポテンシャルは相対的に低下する可能性があることは地域づくりの観点から頭に入れておくべき。（小澤副部会長）
- 「道路ネットワーク」「交通マネジメント」など、古い言葉が使われているので、ワーディングのチェックをするべき。（小澤副部会長）
- 4章と5章は、都市計画審議会に出すときは「未定稿」であることを明記すること。（池邊部会長）

■スケジュール

- 修正については各委員にメールで連絡すること。（池邊部会長）

以上